

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果

京都市立京都御池中学校

5月27日に本校9年生233名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語・数学の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されています。生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学）

全体的に良好です。国語、数学のいずれについても、平均正答率は全国および京都府の平均を上回っています。また、2教科ともに記述する問題によく取り組み、無解答率も低く、最後まで粘り強く考えて取り組む姿勢がうかがえました。

なお、この調査は、昨年度までの学習指導要領による学力・学習状況を調査するものですから、評価の観点とは4観点または5観点になっています。

国語科より

全領域に渡り良好と言えます。

特に、「話すこと・聞くこと」の領域によく取り組みました。「話し合いの話題や方向を捉える問題」問題番号1（一）では正答率94.8%、「質問の意図を捉える問題」問題番号1（二）では正答率93.6%、とよくできました。また、「言語について」の領域では「文脈に即して漢字を正しく読む問題」の正答率は特に高い結果となりました。「伸ばして」の読みを問う問題番号4（一）①は99.6%、「詳細」の読みを問う問題番号4（一）②は92.3%の正答率でした。「書くこと」の領域でも「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く問題」問題番号4（四）は85.0%の正答率とよく取り組みました。

その一方で、「読むこと」の領域で課題が見られました。「文脈の中における語句の意味を理解する問題」問題番号3（一）は、全国正答率43.7%を上回ったものの本校正答率は56.2%、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ問題」問題番号3（四）は、本校正答率36.5%（全国正答率20.5%）という結果でした。前者については普段からの読書量が問われます。後者については、筆者の考えが表れている箇所を引用し、どのような考えが表れているか説明し、その考えに対する自分の考えを述べる、といった日常の授業での課題にしっかり取り組むことが必要です。

日ごろから、根拠と考える妥当性を吟味し、話したり書いたり、また読んだりできるよう、一層努力しましょう。そして、目標の達成に向けて、粘り強く試行錯誤を繰り返し、主体的に学習に取り組むようにしましょう。



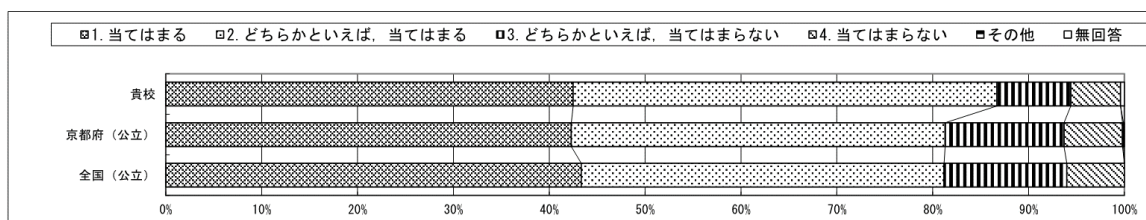
数学科より

今回の出題では、表やグラフなど、データの読み取りだけではなく、分析したり、手法を考えたり、結論を導き出したりと、日常生活で数学を用いて問題解決を図る設問が多くありました。本校の正答率は、平均においても設問ごとにみても、全国や京都府の正答率を大きく上回りました。基本的な知識や技能を問う問題に対してはある程度定着していることがうかがえます。しかし、全国的に指摘されている内容と同様に、本校生徒も課題解決を図る設問の正答率が低い結果でした。例えば、問題番号 8(3)「日照時間が 6 時間以上の日は、6 時間未満の日より気温差が大きい傾向にあると主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する」問題では全国の前答率が 10.8%、本校でも 14.2%にとどまりました。また、問題番号 7(2)「与えられた表やグラフを用いて、2 分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する」問題では、全国の前答率が 27.7%、本校生徒は 39.5%でした。解決のために目的に応じて必要な情報を選択し、解決方法を言葉で説明する力をつけていくことが必要です。そのために、普段の学習から読解力を意識した問題の読み取り方、また、自分の考えを言語化し、整理する意識を持つことが重要です。設問の内容から、学習した数学を実生活につなげて活用できるかをみる問題でもあるので、自分の考えを、他者に説明する機会などを大切にしながら改善していけるようにしましょう。

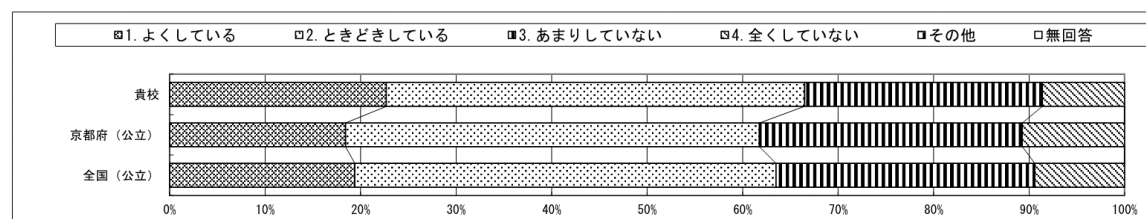
「学びに向かう力」が求められている今、数学への意欲を知的好奇心につなげることで、それぞれの力の定着、伸長が図れます。日常の中に潜む数学に興味をもち、学習に結び付けることを習慣化できるようにしていきたいですね。

生徒質問紙調査より

「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に答えた生徒の割合は 86.7%と全国の 81.1%を 5.6 ポイント上回っており、学校での学習や部活動、友だちとの会話などに楽しさを感じていることがうかがえます。

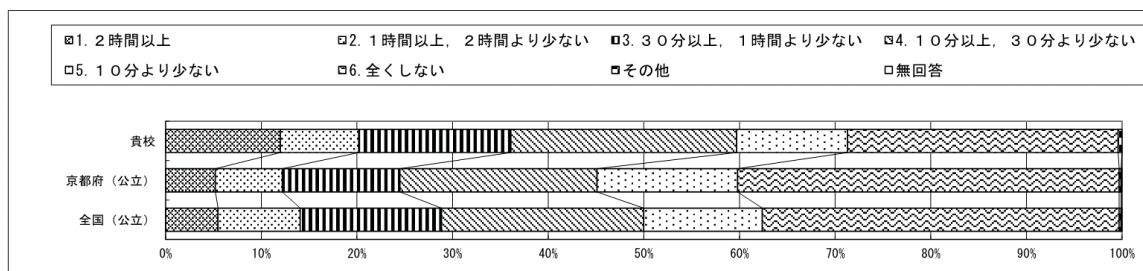


「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に肯定的に答えた生徒の割合は 66.5%（全国63.5%）でした。決められたことをこなすのではなく、自主的に計画を立てて学習に取り組む態度が育っています。

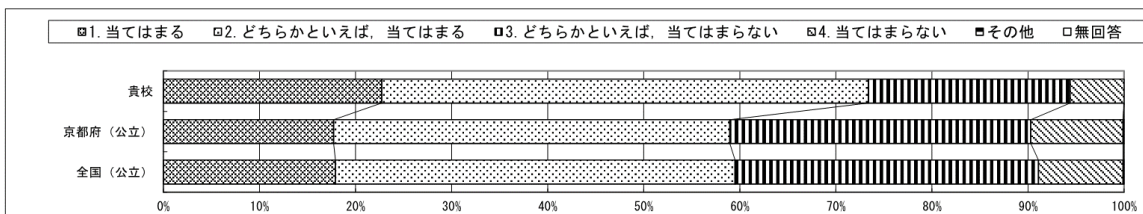


生徒質問紙調査より

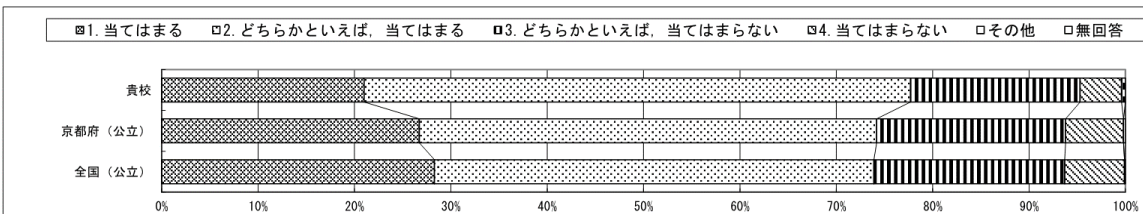
「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌を除く）」の質問に2時間以上と答えた生徒が12.0%（全国5.5%）、30分以上までを含めると36.1%（全国28.9%）と全国より7.2ポイント上回りました。毎日の朝読書で読書活動が習慣化し、家庭でも本に親しんでいる様子が伺えます。



「1, 2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか」について肯定的に答えた生徒の割合は73.3%（全国59.5%）でした。学習した内容を基に、自分自身で発展的に学習を深める姿勢が定着しています。

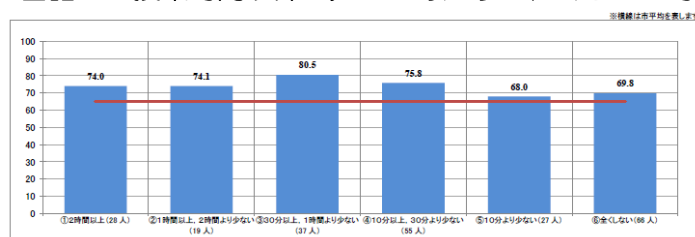


「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の質問に肯定的に答えた生徒が77.7%（全国73.9%）でした。お互いに意見交換をしてよりよい解決策を模索し、協調しようとする態度が育っています。



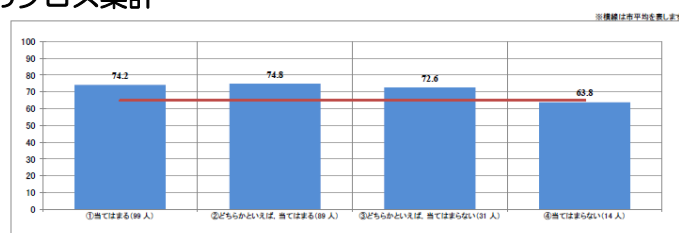
正答率と生徒質問紙のクロス集計より（縦軸が正答率、横軸が生徒質問紙の項目）

○ 国語と「授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか」のクロス集計



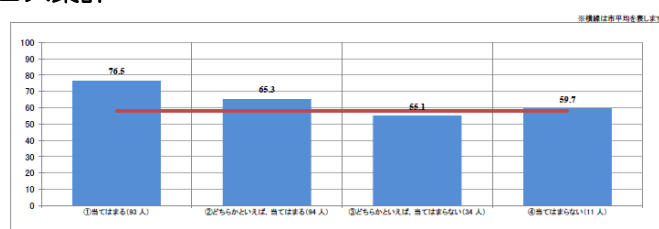
読書の時間と国語の正答率には相関関係があり、30分以上読書をする生徒と10分以下の生徒とでは、7.3点の差がありました。読書の習慣化により国語の力がつくと思われます。

○ 国語と「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」のクロス集計



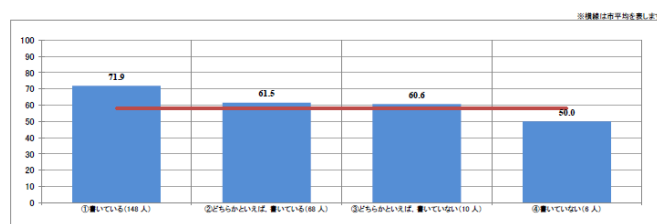
国語で学習したことが社会に出たときに役立つと思う生徒ほど正答率が高く 10.4 点の差がありました。日頃から社会に目を向け学習したことが役立っていると気付くことが大切です。

○ 数学と「数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずに色々な方法を考えますか」のクロス集計



解き方が分からない時に、様々な方法を試行する生徒ほど正答率が高く 16.8 点の差がありました。学習したことを活用し、思考を巡らせることが数学の学力を高めることにつながると考えられます。

○ 数学と「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」のクロス集計



自分の思考の過程を視覚化している生徒ほど数学の正答率が高く、21.9 点の差がありました。間違ったときや解けなかった際にも、思考の経緯を見直すことができ、次に生かすことができていると思われます。

◆京都市立学校で実践されている学力向上について

京都市教育委員会のサイトで全国学力・学習状況調査の京都市の結果と本市の授業改善の取組をご覧になることができます。(https://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000257347.html)